

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月3日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204169		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・大町		
所在地 (電話番号)	〒731-0124 広島市安佐南区大町東3丁目1-18 ハートランド大町1階 (電話) 082-831-8885		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年5月21日	評価確定日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 9 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 12.0 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独型	併設型
建物構造	鉄筋コンクリート造り 6階建ての 階 ~ 1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A室40,000円 B室33,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	370 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	8名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.1 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋山クリニック・松本歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム大町では、職員全体で利用者の方々へのケアに対する意見の統一を図るために、母体の事業所の理念に沿って毎年ホーム独自の理念を全職員で話し合って制定している。また、利用者の方々への日常生活圏域を基本としたサービス体系の確立と、利用者を支える地域との仕組みにも積極的に取り組まれている。一つ例としては、事業所も地域住民の一員として町内会に加入し、近隣の方々との合同避難訓練の実施や、また、利用者が散歩されるときには近隣の人達による声かけや見守りをしていただくという協力体制の構築、赤ちゃん連れの近隣の方の立ち寄り、町内の子供会と合同で開催されている交流会等がみられる。このことや、利用者一人ひとりのベースと存在感を大切にされている支援の下で、多くの利用者の方々が生きて生活されていることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では主な改善課題は特になかったが、その後の取り組みとして理念をもっと掘り下げ各ユニット毎の目標を制定し、ケアの意見の統一を図られている。事業所の全体会議の開催は若干不足しているようなので、これからは定期的な開催について検討され、共通した目標の設定や情報交換等を今以上に図られることが望まれます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>事業所全体で自己評価の意義や活用方法をよく理解し、全員でこれらに取り組んでおり、この結果を踏まえて質の向上につなげていく姿勢が伺えた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催されており、会議を通じて事業所の役割や会議の意義について伝えられている。また、会議には所轄の地域包括支援センターや地域及び家族の代表者等の参加をいただきながら、会議の場では事業所からの報告はもとより、参加者からも活発な意見交換や地域との交流の場として、全ての事業について企画案などが話し合われており、地域の理解と支援の輪が年毎に増しているようである。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>常日頃から、家族等と職員が顔の見える関係づくりとして意見等が気軽に伝えられるような機会と体制をつくりながら、意見や苦情を前向きに受け止め、活かして質の向上を目指している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は町内会に加入し、地域活動の情報を集め、これらに参加するなどしながら地域や人々との関わりを積極的に進める努力を行っている。例えば、地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練の実施や、散歩時における利用者の方々への近隣の方達による声かけや、見守りの協力等がみられる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体事業所の理念を基に、事業所独自の地域密着型サービスの果たすべき役割を反映した理念を、職員と共に話し合って毎年策定している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングでは、理念に必ず触れ、確認し合うようにしている。		現状では、各ユニット毎に目標が策定されているが、これからは全体会議の開催を再度検討し、ホーム全体としてのまとめをする必要があるのではなかろうか。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域住民の一員として町内会に加入し、地域の情報を集めを行い、出来るだけ積極的に利用者職員は参加しながら、地域の人々と接点を持つようになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義や活用方法は管理者と職員全員でよく理解し、取り組まれており、その結果を踏まえて改善項目を全員で話し合っ質の向上につなげようとしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、参加には所轄の地域包括支援センターの職員や地域の代表者の方などが出席されており、会議の場では参加者からの積極的な意見や質問及び情報をいただきながら、そこでの意見などをサービス向上に活かす姿勢が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会などに参加し、この機会を捉えて市担当者などとの情報交換は行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の事業所での暮らしぶりや定期的な報告は、毎月ホーム便りで伝えている。また、必要に応じては電話などで様子を知らせている。このほか、毎月の金銭管理状況も詳細に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や不満及び苦情は、直接母体の事業所の窓口に伝え事後処理が行われている。また、常日頃からホームでも意見等を気軽に伝えられるような窓口等を設けるなど雰囲気づくりと機会づくりに留意しながら、出された意見等を前向きに受け止め、反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は基本的に行わない方針であり、やむを得ず異動をする場合は、馴染みの関係の障害にならないように配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が事業所内外を問わず研修を受講出来るように機会は確保されており、研修結果報告は毎月行うミーティングを通じて、全員で研修内容の共有化と意欲向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、県内及び全国組織のグループホーム交流会に参加するなどしており、そこでの事例検討などを通じて得た内容を参考にしながらサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者や家族にはホームの見学や体験利用を通じて、安心して利用していただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	常日頃から、職員は利用者と一緒に過ごし、学び、支えあう関係づくりを築きながら支援を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日常の暮らしの中で、職員は利用者の希望や意向の把握に努めながら、アプローチを一つひとつ丁寧にやっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者及び家族の意見を反映させながら、また、常に新鮮な目で利用者の立場に立った上での介護計画の作成に努めている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	毎月のミーティングでは、利用者個々の現状と介護計画の整合性についてよく話し合いと確認を行いながら、現状に沿った新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族の状況や要望に応じて、通院や送迎など柔軟な支援を行う体制づくりに取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行での受診としているが、家族の同行が困難な時は職員が同行するなどして、適切に医療を受けられる支援と気軽に相談できる体制も出来ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所が出来うる最大のケアについては、必要性に応じて介護計画の作成時にその都度詳細に説明と確認を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃から、職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に気配りしながら、意識づけの徹底も図られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望とに合わせながら、互いに気持ちの寄り添った生活を考えて支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物や食事の準備などは、出来るだけ利用者のその日の希望や状態に合わせて職員と一緒にしている。食事時には、職員と利用者が同じテーブルを囲んで同じ物を一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣や、その日の希望や意向に沿って入浴の支援に心がけ、また、血圧測定等の健康チェックも行った上での安心と安全な入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方々の笑いのある生活を支援するためには、どうすべきか利用者一人ひとりの気持や力を活かした場面づくりに努められている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や、希望、季節等のその時々状況に応じて、一人ひとりが短時間でも外出し楽しめる支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解し、ホームの玄関には鍵をかけない支援に努めているが、時には利用者の状況に応じては安全を優先する上で、家族の承諾で施錠することもある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所だけ訓練ではなく、地域の方々の参加、協力を得ながら避難訓練を定期的実施している。また、町内会とも話し合い地域の広域避難訓練にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者の嗜好・食事・水分は把握されており、一人ひとりの状況に合わせた支援を工夫しながら行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の五感に配慮しながら、リビングで思い思いに過ごしていただけるようたり写真を飾ったり、季節感を採り入れるなどきめ細かい工夫がなされている。また、家庭的な雰囲気の中で、利用者同士のつながりを感じるさせる空間づくりにも心掛けている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して入居時に馴染みの品を持ち込んでもらったり、利用者の居心地のよさに配慮や気遣いなどに配慮している。また、居室においての安全な環境づくりにも心掛けている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ・大町

評価年月日 平成20年4月28日

評価年月日 平成20年4月28日

記入者 職 ホーム長 氏名 三浦 千恵(大町)

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>H20年2月ミーティングにて事業者独自の理念をスタッフで話し合い、『明るく元気で』に決定。4月ミーティングにて『心地よい環境作り』を追加。今後も当ユニットの介護指針となるよう積み重ねていく予定。</p>	<p>昨年度外部評価の中で、何が大切かを常に事業所で自ら考え、独自の理念を検討するよう提案頂き、その後のスタッフミーティングで話し合いを重ねた。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>ミーティングでは理念を掘り下げてスタッフ全員で話し合い、日々のケアの実践に活かしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		<p>ご家族には通信で伝えたり、家族会の行事で伝えたりしている。地域の方へはH20年2月11日の『ひなたぼっこのほかほか交流会』や町内会の会合、運営推進会議などでホームを知って頂く機会を作っている。</p>	
2. 地域との支えあい				
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>最近のご近所の方が赤ちゃんも連れてご家族で遊びに来て下さることもあり、入居者様方はとても喜んでおられる。</p>	<p>一人で散歩される入居者様を見守って下さるご近所の方、食器や鉢植えを寄付して下さる方々が居られる。いろいろ協力して頂くので感謝の気持ちを表すようにしている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>まだまだ地元で知る人が少ないので、機会を活かすようにしている。H20年2月11日には町内会・子供会の提案で『ひなたぼっこの交流会』を合同開催したり、避難訓練に近所の方々が10名程来て下さったりと交流が深まってきている。</p>	<p>一昨年以来町内会に参加し地域との交流が深まりつつある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>『認知症サポーター100万人キャラバン』アドバイザーのいる施設として、認知症の正しい知識や認知症の人とのつきあい方などを広め、認知症の人や高齢者が地域で安心して暮らせるよう、ホームとしても一役を担いたい。</p>	<p>町内会の地域清掃や行事に参加したり、同じマンションの方々の困りごと請負いなどできることから取り組んでいる。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価の各項目を実践し深めていくことで、入居者様一人ひとりが安心して楽しく暮らすことができると確信しスタッフ全員で取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での報告を通じて地域の人々の理解が深まり、入居者様に声をかけて頂いたり、情報を寄せて頂いたりするようになった。</p>	<p>運営推進会議での意見により、町内会・子供会との交流会が企画された。今後ホームに地域の高齢者を招く企画をはじめ、地域にホームを知って頂く機会が増える予定。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町担当者に対しても更にホームの内容などについて情報交換を行いながら、サービス向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域密着型サービス事業者管理者研修などを通して学ぶ機会が持てたことにより、これまでの消極的な情報提供から脱し、必要な情報提供が前進しつつある。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待アンケート（無記名）を実施したり、研修の機会を持つなど前向きに取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項やホームでできること・できないことなどを十分説明するようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見・苦情や提案を頂いた時は、それをスタッフ優位で結論付けていないか反省しケアに活かすよう心がけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者様のホームでの生活を知って頂くように、毎月発行の通信をご家族に見やすいよう工夫し、また更に形を変えるよう試みたりして進化させている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接スタッフに言い難いことも苦情窓口などにご意見を下さるのでホーム運営に反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回の個別面談を設けたり、ミーティングで意見を聴いたりしているが、スタッフから管理者へは言い難いこともある。管理者へ意見を言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の自由な暮らしを支えるよう、起床時や就寝時、犬の散歩時間など入居者様の状態やペースに合わせた柔軟なスタッフ体制を組んでいる。</p>	<p>柔軟な体制をとることがスタッフにとって過度のストレスにならないよう更に配慮が必要である。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には各ユニットのスタッフを固定化し、顔馴染みのスタッフによるケアを心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム外で開催される研修には、どのスタッフも参加できるように機会を設けている。</p>	<p>研修報告は毎月のミーティングで発表してもらい、スタッフ全員の意欲向上の源になるよう取り組んでいる。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内のグループホーム事業者交流会、全国組織のグループホーム交流会に参加し、サービス向上に活かしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフが入居者様と離れ、一息入れる休憩時間を取るよう配慮している。</p>	<p>職場を離れて、スタッフ同志の交流の機会を持っている。特に夜勤専門スタッフ同士の交流が持てたことは評価したい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>就業規則が守られている。健康診断の実施などの取り組みが行われている。</p>	<p>笑顔で働ける職場作り、ここで働いて良かったと思える職場作りに向け、更なる努力を重ねることによって入居者様を支える暮らしが深まる。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>とても大切なことだとスタッフ全員で話し合い、相談時よりご本人の不安などを受け止め、信頼関係を築くよう全力を尽くしている。</p>	<p>このことを通して、新入所の方々もホームに馴染んで頂いていると実感している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人同様、相談から利用に至るまでのご家族の気持ちを受け止めることに重きを置いている。</p>	<p>このことを通して、ご家族もご本人を送り出す気持ちの整理ができて、ご本人への今後の支援が深まる。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談をホーム入所に直結するのではなく、ご本人とご家族の困っていることを受け止めて繋げていくよう取り組んでいる。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずはご家族にホーム見学などでホームを知って頂くよう図っている。ご本人にも見学や体験を通じて、安心して利用して頂けるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>開所以来5年が過ぎ、これまでは入居者様の立場にたつてと考えることに必死であった。やっと最近スタッフ間で入居者様と共に過ごすという実感が持てるようになってきていると思える。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人同様、ご本人を共に支えるご家族とも人間同士としての関係が基盤となるよう努めている。ご家族の思いを受け止めスタッフ間での共有に努めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>開所以来数年経つと入居者様とスタッフが家族のように気持ちが親しくなるが、入居者様ご本人とご家族のより良い関係が続くよう両者の絆を大切にしようきめ細かな支援を心がけている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ホームに入居されてもこれまでの近所の方やお友達と交流するよう支援している。</p>		<p>馴染みの喫茶店や図書館・友人宅を訪問する機会を支援しているが、最近お店が閉店したりして環境が変わってしまうことが時間の流れと共にあることを実感する。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>長年暮らしてこられた我が家を離れての生活は思い通りにならないことや不安が多い中で、入居者様同士仲の善し悪しを配慮し、孤立してしまわないよう支援している。</p>		<p>場面によって入居者様同士、なだめ役になったり、相談者になったりして支えあう力を引き出すよう支援している。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他の施設へ行かれた方へも入居者様と一緒に訪問する機会を作っている。現在でも複数の退去された方々からひなたぼっこの写真を見て懐かしいと電話を頂く。ご家族方とも相談などで関係を継続している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で把握に努めている。言葉や表情などから真意を推しはかり、それとなく確認するようにしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>若い頃のことなどは子どもさんも知らないことが多く、把握が難しい入居者様からはご本人自身の断片的なお話を寄せ集めて、スタッフも創意工夫しながら支援している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や細かな動作から感じ取り、ご本人の現状と全体像を把握している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者ご本人の希望、ご家族の願い、スタッフの日々の気付きや意見を反映し、話し合いながら計画を作っている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティング時に入居者様個別に見直しをして新たな計画に反映させている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録とともに月毎ミーティングに向けての入居者様一人ひとりの課題をプレミーティングで準備・検討している。</p>		<p>記録については同じ内容を複数回記録しないで良いよう工夫して活用が進むよう進化させたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ご本人・ご家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応しそれぞれの満足を高めるよう努めている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>町内会や民生委員の協力で行事に参加したり、公民館のいきいきサロンを活用したり、区民文化センターでの催しや図書館利用など普段の生活において協力を得ている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じてホーム以外のサービスとつなげるよう地域のケアマネジャーと連携をはかっている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。</p>		<p>運営推進会議でホームにできることを考えた際、地域包括センターの職員より今年度ホームで高齢者を招く催しを提案頂いたので試みる予定にしている。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には家族同行の受診となっているが、困難な場合には職員が代行するようにしており、契約時にその旨を説明し同意を得ている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近隣に専門病院があり、必要に応じて指示や助言をもらっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>非常勤の看護スタッフを配置しており、常に入居者様の健康管理や状態変化に応じた支援に取り組んでいる。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員も頻繁に見舞いながら、なるべくご本人の混乱が少なく早期に退院できるよう支援している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご本人とご家族の状況・状態・気持ちなどは変化しやすいので、介護計画作成時に確認したり、話し合いを積み重ねながら支援している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>まだまだ重度化や終末期に向けての支援については描ききれていない。ご本人・ご家族や主治医との取り組みを深める必要がある。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の居所へ移り住む際も入居者様にとって混乱が軽減するよう、きめ細かな情報提供や支援を心がけている。</p>		<p>今年退所された2名の方についても新しい転居先（老健・病院）とご家族とともに引き続きホームやスタッフの支援体制を築いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを重んじた言葉かけ・対応について深めるよう心がけている。ミーティングなどで考え方を深めるよう話し合っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>スタッフは入居者様と過ごす時間を通して、入居者様の希望・感心・嗜好を見極め、日常の生活の中でご本人が選びやすい場面作りを支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、スケジュールに流れないよう配慮している。できるだけその時のご本人の気持ちを尊重して支援している。</p>	<p>スタッフのペース優先になりがちなので、更なる取り組みが必要である。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>それぞれの希望に応じた理容・美容を選んで頂き、ホームでの毛染めなども提供している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>朝の買出しに始まり、お米とぎだけ、皮むきだけと一人ひとりの入居者様の力を活かして援助を行うよう、声かけなどを工夫している。</p>	<p>食事習慣（生活習慣）の違う方々が揃っての楽しい食事の雰囲気作りができるよう、気配りなどに配慮している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人の好みのものを気軽に希望して頂けるように努めている。また、入居者様の様子や気持ちを察してスタッフから提案するよう心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	薬の副作用で失禁される場合もある。プライドを傷つけないように工夫し、周囲に気付かれないよう配慮している。		ポータブル使用の入居者様に対する周囲の入居者様からの配慮を続けている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい方、入浴は嫌いな方、それぞれの希望を叶え、入浴して気持ちよかったと喜んで頂けるよう支援している。		入浴が嫌いな入居者様への誘いが難しく、タイミングを工夫するようスタッフで話し合い、試みを続けている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中にできるだけ希望の外出や意欲向上をはかることで夜間に熟睡できるような生活リズムを作るよう支援している。		夕食前後より安心して過ごして頂けるような援助を工夫し、状況に合わせてスタッフの体制も増やしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いがあるということがホームでの生活にとっても大切なことだとスタッフが認識し、笑いのある生活を支援するように心がけている。		役割や楽しみと同時に一人ひとりの入居者様のストレスがたまった時には息抜きや気晴らしができるような支援を更に深めたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかいを持ってご自分で買物を楽しまれたり、必要な小物を購入できるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	友人宅や馴染の喫茶店など個別の希望を叶えると同時に、一緒に出かけて楽しかったという喜びも支援するよう心がけている。		できるだけきめ細かく、希望に添って外出支援を継続していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホテルで昼食をしたり、映画館に出かけたり、転居された方を訪問したり、展覧会に出かけたりする機会を作り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の居室などでゆっくり電話ができるよう支援している。		手紙や年賀状等を書く機会を作って、ペンや筆を持つ習慣を継続支援したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂けるよう、まずスタッフが笑顔で迎えるよう心がけている。ご家族・親類のみならず元町内の方やお弟子さん、元会社の同僚など馴染みの方々が訪問して下さり入居者様方はとても喜んでおられる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで身体拘束しないケアについて学習を深めている。		日々のケアを振り返ることを通して、身体拘束しないケアの実践を継続したい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はスタッフが鍵を開けている。自由に外出される入居者様はそっと見守り、遠くに出かける様子なら安全に配慮するため付き添うよう支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の動きやサインを察知できるよう、スタッフはさりげなく常時見守り支援を行っている。夜間は特に2時間毎に利用者様の様子を確認するとともに、対応がすぐにできるよう夜勤スタッフの居場所を工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミ・裁縫道具も自由に使えるように支援している。		入居者様の状況変化に応じて配慮できるよう、ミーティングで話し合ったり、申し送りで情報交換を共有するように努めている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開所以来転倒・骨折事故はなくきているが、高齢者者にとって一番リスクが高いので入居者様一人ひとりの状態把握などの配慮を継続して支援している。		ヒヤリハットを記録し、スタッフの認識共有を図っている。小さな事故もご家族への報告と今後の予防対策について検討している。特に洗濯干し場や犬の世話などでの事故が起こらないよう、さりげない見守りなどの支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、ホームにおいて2年毎に全スタッフが救急救命講習を受けている。		自主的に意欲のあるスタッフが公的機関実施の救急救命訓練を受けて、他のスタッフにも繋げている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは入居者様を交えて年二回以上消防避難訓練を行っている。町内会とも防災についての話し合いを持ったり、地域の広域避難訓練に参加したりしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの入居者様のご家族と介護計画作成などを通じて話し合う機会を持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	特に誤嚥性肺炎予防、皮膚疾患予防、心筋梗塞再発予防などに取り組んでいる。変化などがあればスタッフ間で情報を共有し、看護師や主治医に繋げ早期発見・早期対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを活用し、確認を徹底している。看護師の協力を得て理解を深めたりしている。薬の処方などの変更には申し送りを徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消や排便リズムの確立が日々の暮らしにとっても大きな影響がある。その点一人ひとりの入居者様にとって快適環境であるよう日々観察や工夫を行っている。		野菜などで繊維質をしっかり摂取するとともに散歩、買物、食事など身体を動かす機械を支援している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりのペースに配慮し時間をかけて毎食後支援したり、歯科衛生士の協力により口腔ケアに取り組んでいる。		歯磨きセットも一人ひとりの状態に合わせて用意している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>現在は糖尿病によるカロリー制限が課題で体重が増えないような支援が必要とされている。栄養バランスに配慮し、こまめな水分摂取も心がけている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>季節・地域の感染症発生状況の情報収集に努め、早期発見・早期対応に取り組んでいる。</p>		<p>ホームで起こった感染症、今後起こりうる感染症について主治医とも連携を取りながらスタッフ間で学習に取り組んでいる。</p>
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>新鮮な地元の食材を提供できるよう、ほぼ毎日JAなどに買物に出かけている。冷蔵庫・冷凍庫の点検・整理や調理器具などの衛生管理に取り組んでいる。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>入り口に手作りの看板を掲示し、ベンチを置いたりして開放的な雰囲気に努めている。</p>		<p>施設的ではなく家庭的な作りになるよう勤めているが、初めて来所する人にはわかりにくいとの指摘もあるので、改善を検討したい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>一昨年外部評価で食卓テーブルの上の天窗の日差しが強かったので調節・工夫を続けている。また、ダイニングと台所が繋がっていて入居者が家事に参加しやすい反面、台所の音でテレビや会話が聞こえにくくならないよう配慮している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下やウッドデッキにそれぞれくつろぎやすい椅子を配置して、仲の良い入居者様同士でくつろげるスペースになっている。一人になれるスペースにもなっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品・装飾品などが持ち込まれており、入居者様一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節やその日・その時の温度・湿度・換気に注意し、入居者様一人ひとりの状態に配慮して行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の調理用ワゴンが入居者様には高かったので、良い高さに作り変えた。犬の世話をされる時に膝を痛めないよう椅子を作った。度々外の空気に触れて頂くよう、庭の半分をウッドデッキにした。		食卓椅子の座面が広くて食事時に適切な姿勢を取りにくい様子が見受けられたので、座面の広さがちょうど良い椅子に取り替えている。椅子の高さについても考慮中である。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかりにくいこと、混乱を招きやすいことなどご本人の不安材料を取り除き、ご自分の力を発揮しながら暮らせるよう努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて入居者様が涼んだり、中庭のウッドデッキでおやつや花・犬の世話をする空間を作っている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ・大町

評価年月日 平成20年4月28日

評価年月日 平成20年4月28日

記入者 職 ホーム長 氏名 野田 愛(大町)

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域密着型サービスの意義を再確認し、地域の中でよりよい生活ができるよう、地域との関係も深めていきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		日々、またはミーティング時などの話し合いでケアに生かせるよう努力している
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の方へは、まだまだ不十分なため、今後の課題である
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や町内会長を通じ、ホームでできることや近隣からの要望を聞き、取り組んでいけるよう模索中		スタッフ体制等、事実難しいのが現状
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で自己評価に取り組んでいる		さらにケアに活かしていけるよう取り組みたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みや内容を報告し、それに対する意見をもらっている。また地域参加への助言・相談を互いにおこない、ケア・サービスの向上に活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現時点ではなかなか機会が得られていない		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	体制の面で、研修参加の機会があまり持っていないのが現状。また実際に関わることがないため、不十分。		研修の機会を持てるよう努めたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合い、取り組んでいる		研修の機会を持てるよう努めたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項、リスク、医療体制などの説明を十分におこなっている	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	その場で解決できないものは、ミーティング等で取り組んでいる。またスタッフ本位になっていないか等の再確認をしている。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月の通信にて報告。また個別のアルバムを作成し、通信だけでは伝えきれないものを補っている	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	アンケートの実施。面会時に何でも言っていただけの雰囲気作りをしている	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	日頃からコミュニケーションを図るように努めている。ミーティング等で意見を聞いている	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	その時々状況に応じて柔軟な体制が取れるよう努めている	管理者がシフトに入っているため、スタッフの急病時や利用者の急変時等に無理が生じることもあるため、余裕を確保したい
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	各ユニットのスタッフをなるべく固定し、馴染みのスタッフによるケアを心がけている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	ホーム外での研修に参加。参加後はミーティングでの報告、回覧をしている	さらに研修の機会を持てるよう努めたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	体制の面で、なかなか機会が持てていないのが現状	今後の課題
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間を設けているが、場所の確保ができず不十分。なるべく個別に話を聞く機会をとっている	休憩時間の確保が課題
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則が守られている。健康診断などで健康管理もされている	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談時から事前面談まで、ご本人の話をしっかり聞き、不安や希望を理解するよう努めている。体験入居も行っている	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談時に、まずはご家族の話をじっくり聞き受け止め、次の段階へつなげていけるよう努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、ご家族の状況を確認・把握した上で、必要なサービスに繋げるようにしている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通常はホーム見学、事前面接、体験入居と段階を踏むが、緊急の場合はご家族の協力を得たり、スタッフ間での工夫、連携で安心感を持っていただけるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることをスタッフ間で共有し、野菜作り・食事作り等、得意なことを教えていただく場を設けている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、ご本人の様子・スタッフの思いを伝え、またご家族の話を聞いている。またスタッフ間でも共有している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの思いを受け止め、面会時等はスタッフが間に入っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人・友人との交流が続くよう支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係をミーティング、またはその時々においてスタッフ間で情報を把握し、日常生活の中ではスタッフが調整役となっている。また、個別での対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も転居先、入院先は訪問したり、ご家族から近況を伺ったりしている		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握できるよう努めている。また意思疎通の困難な方には、ご家族から情報を得るようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご本人、ご家族から情報を得ている。入居後も日常生活の中で把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人のできることに注目し、その方の全体像を把握している。また、生活のリズムの把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや希望を聞き、スタッフや主治医の意見も反映した上で作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化やご本人、ご家族の要望に応じて見直しをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、出勤時には確認をしている。またミーティングで話し合っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じて、通院・送迎など柔軟に対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会などの協力を得て、行事に参加している。区民文化センターでの催し物にも参加している。消防署の指導の下、避難訓練を地域の方も交え行っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町内の行事に参加している。また訪問理美容を利用している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、周辺状況や支援に関する情報交換、協力関係が築けている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、通院、往診はご本人、ご家族の希望・状況に応じて対応している。また、入居前からのかかりつけ医での受診もご家族と協力しながら行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に専門医院があり、必要に応じて受診し指示や助言をもらっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護職員を配置しており、健康管理・状況に応じた支援をしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、お見舞い時には看護師長やご家族と情報交換している。またホームでの生活復帰のため、医療機関へ要望をその都度伝えている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人・ご家族の意向を入居時、入居後などその都度確認し、主治医・スタッフ間で連携をとっていけるよう勤めている。主治医からご家族への説明もされている。ミーティングで方針の確認もしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期への支援はまだまだ不十分だが、ホームでどこまで可能か、主治医へ相談し助言をもらっている。		今後さらに取り組みを深めていきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を細かく伝えられるよう心掛けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>自尊心やプライバシーを損ねないように心掛けているが、時々不十分なときもある。写真掲載などはご本人・ご家族の同意を得ている</p>	<p>ミーティングやスタッフとの個別面談などで、さらに意識向上していきたい</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人一人に合った支援ができるよう取り組んでる。利用者主体の支援を心がけている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望・状況に応じて支援しているが、スタッフ数に限りがあるため、難しいこともある</p>	<p>さらに柔軟な対応をしていきたい</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的に衣類選択・化粧などご本人にしてもらっている。なじみの理美容室で希望のカット・毛染めなどをしてもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スタッフと一緒に畑の野菜を収穫し、メニュー決め、調理している。また、可能な方・可能な時にそれぞれ一緒にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お好きな物を把握し、買物時に購入したり、おやつ時にお出ししている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は紙パンツの使用を止めている。その日の体調・水分摂取量を把握した誘導を心掛けている。		時々、失敗があるため、さらに把握した支援をしていきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく希望に添えるよう努めているが、すべては難しいのが現状		夕方・夜間入浴の希望に添えていないため、今後の課題
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促している。夜間の不眠時は添い寝などしている。日中も体調や、状況に応じて休んでいただいている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、調理、らっきょう漬け、花の手入れなど一人一人好きな事を活かしている。		ホーム内外での役割、楽しみをさらに増やしていきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な方は、ご家族の協力を得て手元に持たせていただいている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候・体調に応じて、日常的に散歩・買物・畑・ドライブに出掛けられるよう支援している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日などにご家族の協力も得て支援している。美術館・喫茶店など個別に支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使っていただけるようにしている。また必要時にはお手伝いしている。		今後、暑中見舞いや年賀状の支援に取り組んでいきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間を決めず、いつでも訪ねてもらえるようにしている。また気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行ため」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で勉強し、拘束のないケアをしている		研修の機会を設け、さらに勉強していきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室などは一切施錠していないが、玄関のみ施錠している		玄関の開放が今後の課題
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時さりげない見守りをし、安全に配慮している。夜間は必要に応じ、巡回を増やしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自由に使っていただいているが、注意の必要な物品は決められた場所に保管している。はさみ・針などは使用前後に個数の確認をしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入し、スタッフ間で共有の認識を持つようにしている。ご家族への報告も随時行っている		考えられる事故を予測し、事故を未然に防ぐ努力をしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、2年に1回の救命救急講習を受けている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難・消防訓練を行っている。町内会からも参加してもらっている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会・ケアプラン作成時など、ご家族に説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな変化を見逃さないよう、記録・報告等で情報を把握し共有している。看護師への相談・必要時には受診している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方綴りを活用している。看護師・管理者より情報の共有を図っている		処方変更時など、更に詳細な記録・確認をしていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の摂取を心掛けている。水分摂取量の記録をし摂取量の把握に努めている。嚥下困難な方へはゼリー状にして提供している。ホーム内外、なるべく歩いていただけるよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔ケアの声掛けをし、必要な方へは介助している。朝食後の口腔ケアが不十分となっている		朝食後の口腔ケアを充実させていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に記録し、情報を共有している。また必要に応じて細かく記録している。一人一人の状況に応じて、刻んだり、とろみをつけ提供している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について情報収集し、ミーティング等で学習し予防・対策に努めている。ご家族に同意をいただき、予防接種をしている。ペーパータオル・ソリューションウォーターも併せて使用している		さらに学習していきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の熱湯消毒、まな板・布巾の漂白など行っている。冷蔵庫内の食材の確認や、早めに使い切るなど気をつけている		魚介類などは、購入当日に使い切るようにし、買い溜めを極力しないようにしていきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板を掲げ、花や植木、ベンチを置いている。玄関口ビームは季節の花や飾り付けをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器の音や、調理の匂いなど、自然に感じていただいている。居間には生花を飾ったり、季節の飾り付けなどを一緒に行い、居心地の良い空間作りに努めている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・廊下にソファやベンチを設置し、自由に過ごしていただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や小物を持ち込んでもらっている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は常に換気し、トイレには消臭剤を使用し常時、換気扇をつけている。居間の換気も心掛けているが、高齢の方がいらっしゃるため、常には難しく、体調・天候にあわせて行っている。温度調節にも気を配っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った椅子、テーブルの高さにしている。足台の使用や、浴室・脱衣場に必要な手すり・バーを設置している		さらに自立を目指して工夫していきたい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱・不安要素を把握し、状況に合わせて環境整備に努めている。何か生じた時は、その都度スタッフ間で話し合い、工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を確保し、日常的に作業や、収穫を楽しめる環境を作っている		